

第9回 無限級数(2)

今回のポイント

1. 絶対収束級数・条件収束級数
2. 整級数と収束半径
3. 整級数展開

6.3 絶対収束級数・条件収束級数

➤ 交代級数

$a_n a_{n+1} < 0$ ($n = 1, 2, \dots$) のとき、(つまり、隣り合う項の符号が逆) 級数 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ を 交代級数 という。

定理8 (ライプニッツ(Leibniz)の定理)

$0 \leq a_{n+1} \leq a_n$ で $a_n \rightarrow 0$ ($n \rightarrow \infty$) ならば、

交代級数

$$\sum_{n=1}^{\infty} (-1)^{n-1} a_n = a_1 - a_2 + a_3 - a_4 - \dots + (-1)^{n-1} a_n + \dots$$

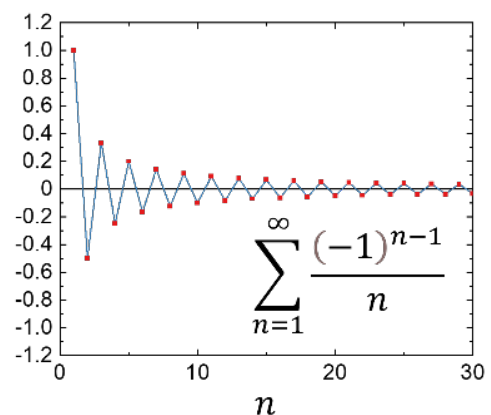
は収束する。

例7

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^{n-1}}{n}$$

$\left\{\frac{1}{n}\right\}$ は単調減少で0に収束するので、

定理8より収束する。(右図)



➤ 絶対収束級数・条件収束級数

$\sum_{n=1}^{\infty} |a_n|$ が収束するとき、級数 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ は 絶対収束する という。

絶対収束する級数(絶対収束級数)は収束するが、逆は必ずしも成り立たない。

収束するが、絶対収束しないとき、状態収束する という。

定理 9

級数 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ は絶対収束すれば収束する。

問 8

次の級数について、絶対収束か条件収束かを調べよ。

$$(1) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n\sqrt{n}}$$

$$a_n = \frac{(-1)^n}{n\sqrt{n}} \text{ とおくと, } \sum_{n=1}^{\infty} |a_n| = \sum_{k=1}^n \frac{1}{n\sqrt{n}} = \sum_{k=1}^n \frac{1}{n^{\frac{3}{2}}}$$

となり、これは教科書 P.183 例題 1 より収束する。よって、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ は絶対収束する。

$$(2) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{2n+1}$$

$a_n = \frac{1}{2n+1}$ とおくと、 $\{a_n\}$ は減少数列で、 $a_n \rightarrow 0$ ($n \rightarrow \infty$) したがって、 $\sum_{n=1}^{\infty} (-1)^n a_n$

は収束する。一方、

$a_n = \frac{1}{2n+1} \geq \frac{1}{2} \frac{1}{n+1}$ であり、 $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n+1}$ は発散するから a_n は発散する。

したがって、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ は条件収束する。

$$(3) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{\log n}$$

$\left\{ \frac{1}{\log n} \right\}$ は減少数列で、 $\frac{1}{\log n} \rightarrow 0$ ($n \rightarrow \infty$) したがって、 $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{\log n}$ は収束する。一方、

$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{\log n}$ は発散する。したがって、 $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{\log n}$ は条件収束する。

定理 10

(1) 絶対収束級数は項の順序を変えても絶対収束して、その和は変わらない。

(2) $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ 、 $\sum_{n=1}^{\infty} b_n$ が絶対収束するとき、それらの項のすべての積 $a_i b_j$ を任意の順序で並べてできる級数 $\sum a_i b_j$ も絶対収束して、

$$\sum a_i b_j = \left(\sum_{n=1}^{\infty} a_n \right) \left(\sum_{n=1}^{\infty} b_n \right)$$

6.4 整級数

➤ 整級数 (べき級数)

一般項が関数 $f(x, y)$ である級数 $\sum_{n=1}^{\infty} f_n(x)$ を 関数項級数 という。

特に、 $f_n(x) = a_n x^n$ ($n = 0, 1, 2, \dots$) であるとき、

$$\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n = a_0 + a_1 x^1 + a_2 x^2 + \dots + a_n x^n + \dots$$

を 整級数 (べき級数) という。

例

$$\begin{aligned} \sum_{n=0}^{\infty} x^n &= 1 + x^1 + x^2 + \dots + x^n + \dots \\ \sum_{n=0}^{\infty} \frac{x^n}{n!} &= 1 + \frac{x^1}{1!} + \frac{x^2}{2!} + \dots + \frac{x^n}{n!} + \dots \end{aligned}$$

定理 11

- (1) 整級数 $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ は $x = x_0$ ($\neq 0$) で収束すれば、
 $|x| < |x_0|$ である全ての x に対して絶対収束する。
- (2) 整級数 $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ は $x = x_0$ で発散すれば、
 $|x| > |x_0|$ である全ての x に対して発散する。

➤ 整級数の収束半径

整級数 $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ に対して

$$r = \sup \left\{ |x|; \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n \text{ が収束} \right\} \quad (0 \leq r \leq \infty)$$

をこの級数の 収束半径 という。sup は上限を表す数学記号。

定理 12 (収束半径の性質)

整級数 $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径を r とすると、 r は次のいずれかになる。

- (1) $0 < r < \infty$ ならば $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ は
 $|x| < r$ で収束 (絶対収束)
 $r < |x|$ で発散
- (2) $r = 0$ ならば、 $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ はすべての $x \neq 0$ に対して発散
- (3) $r = \infty$ ならば、 $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ はすべての x に対して収束

整級数 $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ が収束するような x の集合をこの整級数の収束域という。

例 9

$$\sum_{n=1}^{\infty} x^n \text{ は } |x| < 1 \text{ のとき収束し、} |x| > 1 \text{ のとき発散するから収束半径は } 1$$

また、 $x = \pm 1$ で発散するので、収束域は $(-1, 1)$ である。

定理 13 (収束半径の性質)

整級数 $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径を r とすると、

$$(1) \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| = r \quad \text{または} \quad (2) \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{\sqrt[n]{a_n}} = r$$

例題 2

次の整級数の収束半径と収束域を求めよ。

$$(1) \sum_{n=1}^{\infty} n x^n$$

$$a_n = n \text{ とおくと、} \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{n}{n+1} \right) = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 - \frac{1}{n+1} \right) = 1$$

であるから、収束半径は 1

また、 $x = \pm 1$ で $n x^n \rightarrow 0$ だからこの整級数は発散、収束域は $(-1, 1)$ である。

$$(2) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{x^n}{n}$$

$$a_n = \frac{1}{n} \text{ とおくと、} \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{n+1}{n} \right) = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{n} \right) = 1$$

であるから、収束半径は 1

また、 $x = 1$ のとき発散、 $x = -1$ のとき収束するので、収束域は $[-1, 1)$ である。

$$(1) \sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{2n+1}{3n+1} \right)^n x^n$$

$$a_n = \left(\frac{2n+1}{3n+1} \right)^n \text{ とおくと、} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{\sqrt[n]{a_n}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{3n+1}{2n+1} \right) = \frac{3}{2}$$

であるから、収束半径は $\frac{3}{2}$

また、 $x = \pm \frac{3}{2}$ で $|a_n x^n| > 0$ だからこの整級数は発散、収束域は $\left(-\frac{3}{2}, \frac{3}{2}\right)$ である。

定理 14

整級数 $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径を $r > 0$ とし、

$f(x) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ ($|x| < r$) とする。

(1) 関数 $f(x)$ は区間 $(-r, r)$ で連続である。

(2) (項別積分の定理) $-r < x < r$ に対して

$$\int_0^x f(t) dt = \sum_{n=0}^{\infty} \int_0^x a_n t^n dt = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{a_n}{n+1} x^{n+1}$$

(3) (項別微分の定理) $f(x)$ は区間 $(-r, r)$ で微分可能で、

$$f'(x) = \sum_{n=1}^{\infty} n a_n x^{n-1}$$

※ この定理の意味は、関数 $f(x)$ が整級数で展開できるとき、その積分(微分)は a_n はそのままに各項の x^n の積分(微分)の和で書き表せるということ。

➤ 関数の整級数展開

では、次にその整級数での展開を見ていこうとおもうが、これはマクローリン展開に他ならない。

定理 15

$$f(x) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n \quad (|x| < r) \quad \text{ならば、} \quad a_n = \frac{f^{(n)}(0)}{n!}$$

例題3

次の整級数展開が成り立つことを示せ。

(1) 一般の2項定理

任意の実数 α に対して

$$(1+x)^\alpha = \binom{\alpha}{0} + \binom{\alpha}{1} x^1 + \binom{\alpha}{2} x^2 + \binom{\alpha}{3} x^3 + \cdots + \binom{\alpha}{n} x^n + \cdots \quad (|x| < 1)$$

ただし、

$$\binom{\alpha}{n} = \frac{\alpha(\alpha-1)\cdots(\alpha-n+1)}{n!} \quad (n \neq 0), \quad \binom{\alpha}{1} = 1$$

(2)

$$\tan^{-1} x = x - \frac{x^3}{3} + \frac{x^5}{5} - \cdots + (-1)^{n-1} \frac{x^{2n-1}}{2n-1} + \cdots \quad (|x| < 1)$$

証明

(1) $a_n = \binom{\alpha}{n}$ とおくと、

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)}{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)(\alpha-n)} \frac{(n+1)!}{n!} \right| \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{n+1}{\alpha-n} \right| = |-1| = 1 \end{aligned}$$

となり、収束半径は 1、そこで、

$$f(x) = \sum_{n=0}^{\infty} \binom{\alpha}{n} x^n$$

とおくと、項別微分の定理より、

$$\begin{aligned} f'(x) &= \sum_{n=1}^{\infty} \binom{\alpha}{n} n x^{n-1} = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)}{n!} n x^{n-1} \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)}{(n-1)!} x^{n-1} \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n)}{n!} x^n \end{aligned}$$

したがって、

$$\begin{aligned} (1+x)f'(x) &= \sum_{n=0}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)(\alpha-n)}{n!} x^n + \sum_{n=0}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)}{n!} x^{n+1} \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)(\alpha-n)}{n(n-1)!} x^n + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)}{(n-1)!} x^n \\ &= \alpha + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)}{(n-1)!} \left(\frac{\alpha-n}{n} + 1 \right) x^n \\ &= \alpha + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)}{(n-1)!} \left(\frac{\alpha}{n} \right) x^n \\ &= \alpha + \alpha \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)}{n!} x^n \\ &= \alpha \left(1 + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)}{n!} x^n \right) \\ &= \alpha \left(\sum_{n=0}^{\infty} \frac{\alpha(\alpha-1) \cdots (\alpha-n+1)}{n!} x^n \right) = \alpha f(x) \\ &\quad \therefore \frac{f'(x)}{f(x)} = \frac{\alpha}{1+x} \end{aligned}$$

この両辺を 0 から x まで積分すると、

$$\begin{aligned} \log|f(x)| &= \alpha \log(1+x) \\ f(x) &= \pm(1+x)^\alpha \end{aligned}$$

ここで $f(0) = 1$ であるから、 $f(x) = (1+x)^\alpha$ となる。

(2) $|x| < 1$ のとき(1)で $\alpha = -1$ とおくと

$$\frac{1}{1+x} = 1 - x + x^2 - \dots + (-1)^{n-1}x^{n-1} + (-1)^n x^n + \dots$$

さらに $x \rightarrow x^2$ とすれば

$$\frac{1}{1+x^2} = 1 - x^2 + x^4 - \dots + (-1)^{n-1}x^{2n-2} + (-1)^n x^{2n} + \dots$$

となる。ここで、

$$(\tan^{-1} x)' = \frac{1}{1+x^2} = 1 - x^2 + x^4 - \dots + (-1)^{n-1}x^{2n-2} + (-1)^n x^{2n} + \dots$$

であるから、この両辺を積分すると、項別積分の定理より、

$$\tan^{-1} x = \int_0^x \frac{1}{1+t^2} dt = x - \frac{x^3}{3} + \frac{x^5}{5} - \dots + (-1)^{n-1} \frac{x^{2n-1}}{2n-1} + (-1)^n \frac{x^{2n+1}}{2n+1} + \dots$$

となり、題意を示した。

【問題集】

➤ 絶対収束と条件収束

次の級数について絶対収束か条件収束かを調べよ。

$$(1) \sum_{n=2}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n}$$

$$(2) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n\sqrt{n}}$$

$$(3) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^{n-1}}{n^p} \quad (p > 0)$$

$$(4) \sum_{n=2}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n \log n}$$

$$(5) \sum_{n=1}^{\infty} (-1)^{n-1} \sin \frac{1}{n^2}$$

$$(6) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{e^n \sin n}{n!}$$

➤ 整級数の収束半径と収束域

次の整級数の収束半径と収束域を求めよ。

$$(1) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{x^n}{n!}$$

$$(2) \sum_{n=1}^{\infty} n^n x^n$$

$$(3) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{2^n}{n^2} x^n$$

$$(4) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(n^2)!}{2n!} x^n$$

$$(5) \sum_{n=1}^{\infty} (\sqrt{n+1} - \sqrt{n}) x^n$$

$$(6) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{x^{2n}}{2^n}$$

$$(7) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^{n-1}}{\sqrt{n}} x^n$$

$$(8) \sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{n+2}{2n+1} \right)^n x^n$$

$$(9) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{x^n}{(2n)!}$$

$$(10) \sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{n}{n+1} \right)^n x^n$$

$$(11) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{\log(n+2)} x^n$$

(12) 整級数 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径を ρ とすると、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{2n}$, $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{2n+1}$ の収束半径は $\sqrt{\rho}$ であることを示せ。また、 $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{(n!)^2}{(2n)!} x^{2n}$ の収束半径を求めよ。

次の整級数の収束半径を求めよ。

$$(13) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{2^n(n+1)} x^{2n}$$

$$(14) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{2^n}{n^2} x^{2n-1}$$

$$(15) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{(2n+1)!} x^{2n}$$

➤ 整級数展開

次の整級数展開が成り立つことを示せ。

$$(1) \log(1+x) = x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3} - \dots + (-1)^{n-1} \frac{x^n}{n} + \dots \quad (|x| < 1)$$

$$(2) \frac{1}{\sqrt{1+x}} = 1 - \frac{1}{2}x + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4}x^2 - \frac{1 \cdot 3 \cdot 5}{2 \cdot 4 \cdot 6}x^3 - \dots$$

$$+ (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-1)}{2 \cdot 4 \cdots (2n)} x^n + \dots \quad (|x| < 1)$$

$$(3) \sin^{-1} x = x + \frac{1}{2} \frac{x^3}{3} + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4} \frac{x^5}{5} + \dots + \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-1)}{2 \cdot 4 \cdots (2n)} \frac{x^{2n+1}}{2n+1} + \dots \quad (|x| < 1)$$

$$(4) \sinh x = x + \frac{x^3}{3!} + \frac{x^5}{5!} + \cdots + \frac{x^{2n-1}}{(2n-1)!} + \cdots \quad (-\infty < x < \infty)$$

$$(5) \sqrt{1+x} = 1 + \frac{1}{2}x - \frac{1}{2} \frac{x^2}{4} + \cdots + (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{2 \cdot 4 \cdots (2n-2)} \frac{x^n}{2n} + \cdots \quad (|x| < 1)$$

$$(6) \sqrt{1-x^2} = 1 - \frac{1}{2}x^2 - \frac{1}{2} \frac{x^4}{4} + \cdots - \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{2 \cdot 4 \cdots (2n-2)} \frac{x^{2n}}{2n} + \cdots \quad (|x| < 1)$$

$$(7) \frac{1}{\sqrt{1-x^2}} = 1 + \frac{1}{2}x^2 + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4}x^4 + \cdots + \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-1)}{2 \cdot 4 \cdots (2n)}x^{2n} + \cdots \quad (|x| < 1)$$

【解答】

➤ 絶対収束と条件収束

次の級数について絶対急速課条件収束かを調べよ。

教科書演習 P.182 例題 6.9

$$(1) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n}$$

$a_n = \frac{1}{n}$ とする。 $\{a_n\}$ は単調減少で $a_n \rightarrow 0$ ($n \rightarrow \infty$) であるから

$\sum_{n=1}^{\infty} (-1)^n a_n$ は収束する。また、 $\sum_{n=1}^{\infty} |(-1)^n a_n| = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n}$ は発散するので、与式は条件収束する。

$$(2) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n\sqrt{n}}$$

$a_n = \frac{1}{n\sqrt{n}}$ とする。 $\{a_n\}$ は単調減少で $a_n \rightarrow 0$ ($n \rightarrow \infty$) であるから

$\sum_{n=1}^{\infty} (-1)^n a_n$ は収束する。また、 $\sum_{n=1}^{\infty} |(-1)^n a_n| = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n\sqrt{n}} = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^{3/2}}$ は収束するので、与式は絶対収束する。

$$(3) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^{n-1}}{n^p} \quad (p > 0)$$

$a_n = \frac{1}{n^p}$ とする。 $\{a_n\}$ は単調減少で $a_n \rightarrow 0$ ($n \rightarrow \infty$) であるから

$\sum_{n=1}^{\infty} (-1)^n a_n$ は収束する。また、 $\sum_{n=1}^{\infty} |(-1)^n a_n| = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^p}$ は $p > 1$ で収束し、 $0 < p \leq 1$ で発散する。

したがって、 $\sum_{n=1}^{\infty} (-1)^n a_n$ は、 $p > 1$ で絶対収束し、 $0 < p \leq 1$ で条件収束する。

教科書演習 P.182 問題 6.9

$$(1) \sum_{n=2}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n \log n}$$

$\frac{1}{n \log n}$ は減少数列で 0 に収束するから交代級数 $\sum_{n=2}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n \log n}$ は収束する。

$\frac{1}{n \log n} \geq \frac{1}{n}$ で $\sum_{n=2}^{\infty} \frac{1}{n}$ は発散するので、 $\sum_{n=2}^{\infty} \frac{1}{n \log n}$ も発散する。

よって、 $\sum_{n=2}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n \log n}$ は 条件収束。

$$(2) \sum_{n=1}^{\infty} (-1)^{n-1} \sin \frac{1}{n^2}$$

$a_n = (-1)^{n-1} \sin \frac{1}{n^2}$ とする。 $|a_n| = \sin \frac{1}{n^2} \leq \frac{1}{n^2}$ で

$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2}$ は収束するから、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ は 絶対収束。

$$(3) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{e^n \sin n}{n!}$$

$a_n = \frac{e^n \sin n}{n!}$ とする。 $|a_n| = \left| \frac{e^n \sin n}{n!} \right| \leq \frac{e^n}{n!}$ である。

$b_n = \frac{e^n}{n!}$ とおくと、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{b_{n+1}}{b_n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{e^{n+1} n!}{(n+1)! e^n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{e}{n+1} = 0 < 1$$

よって、 $\sum_{n=1}^{\infty} b_n$ は収束する。よって、 $\sum_{n=1}^{\infty} |a_n|$ が収束するから $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ は 絶対収束。

➤ 整級数の収束半径と収束域

教科書 P.192 問 10 (演習に出題)

次の整級数の収束半径と収束域を求めよ。

$$(1) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{x^n}{n!}$$

$a_n = \frac{1}{n!}$ とおくと、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} (n+1) = \infty$

であるから、収束半径は ∞ 、収束域は $(-\infty, \infty)$ である。

$$(2) \sum_{n=1}^{\infty} n^n x^n$$

$a_n = n^n$ とおくと、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{\sqrt[n]{a_n}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{1}{n} \right) = 0$

であるから、収束半径は 1 、収束域は $\{0\}$ である。

$$(3) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{2^n}{n^2} x^n$$

$$a_n = \frac{2^n}{n^2} \text{とおくと、} \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{2} \left(\frac{n+1}{n} \right)^2 = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 - \frac{1}{n+1} \right) = \frac{1}{2}$$

であるから、収束半径は $\frac{1}{2}$

また、 $x = \pm \frac{1}{2}$ で $a_n x^n = \frac{1}{n^2}$ だからこの整級数は収束するが、

$x < -\frac{1}{2}$ もしくは $\frac{1}{2} < x$ で $a_n x^n$ は発散する。よって、収束域は $\left[-\frac{1}{2}, \frac{1}{2} \right]$ である。

教科書 P.196 演習問題 6-A 2. (レポートに出題)

$$(4) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(n^2)!}{2n!} x^n$$

$a_n = \frac{(n^2)!}{2n!}$ とおくと、

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(n^2)! \{2(n+1)\}!}{2n! \{(n+1)^2\}!} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(n^2)!}{\{(n+1)^2\}!} \frac{\{2(n+1)\}!}{2n!} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(2n+2)(2n+1)}{(n+1)^2 \{(n+1)^2 - 1\} \cdots (n^2 + 1)} = 0 \end{aligned}$$

であるから、収束半径は 0 、収束域は $\{0\}$ である。

$$(5) \sum_{n=1}^{\infty} (\sqrt{n+1} - \sqrt{n}) x^n$$

$a_n = \sqrt{n+1} - \sqrt{n}$ とおくと、

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\sqrt{n+1} - \sqrt{n}}{\sqrt{n+2} - \sqrt{n+1}} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(\sqrt{n+1} - \sqrt{n})(\sqrt{n+1} + \sqrt{n})(\sqrt{n+2} + \sqrt{n+1})}{(\sqrt{n+2} - \sqrt{n+1})(\sqrt{n+2} + \sqrt{n+1})(\sqrt{n+1} + \sqrt{n})} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\sqrt{n+2} + \sqrt{n+1}}{\sqrt{n+1} + \sqrt{n}} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\sqrt{1 + \frac{2}{n}} + \sqrt{1 + \frac{1}{n}}}{\sqrt{1 + \frac{1}{n}} + \sqrt{1}} = \frac{1+1}{1+1} = 1 \end{aligned}$$

であるから、収束半径は1、

$x = 1$ のとき、

$$\begin{aligned} a_n &= \sqrt{n+1} - \sqrt{n} = \frac{(\sqrt{n+1} - \sqrt{n})(\sqrt{n+1} + \sqrt{n})}{(\sqrt{n+1} + \sqrt{n})} \\ &= \frac{1}{(\sqrt{n+1} + \sqrt{n})} \rightarrow 0 \quad (n \rightarrow \infty) \end{aligned}$$

であるから、発散するが、 $x = -1$ のときは収束する。よって、収束域は $[-1, 1)$ である。

$$(6) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{x^{2n}}{2^n}$$

$$a_n = \frac{1}{2^n} \text{とおくと、} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{\sqrt[n]{a_n}} = \lim_{n \rightarrow \infty} (2) = 2$$

であるから、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径は2となる。すなわち $|x| < 2$ のとき収束するので、

$$\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{2n} = \sum_{n=1}^{\infty} a_n (x^2)^n$$

は、 $|x^2| < 2$ で収束する。すなわち $|x| < \sqrt{2}$ のとき収束する。

また、 $x = \pm\sqrt{2}$ で $a_n x^{2n} = 1$ だから、収束域は $(-\sqrt{2}, \sqrt{2})$ である。

教科書演習 P.192 例題 6.16

$$(7) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^{n-1}}{\sqrt{n}} x^n$$

$$a_n = \frac{1}{\sqrt{n}} \text{とおくと、} \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\sqrt{n+1}}{\sqrt{n}} = 1$$

であるから、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径は1となる。

また、 $x = -1$ のとき $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n = -\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{\sqrt{n}}$ となって発散する。

したがって、収束域は、 $(-1, 1]$

$$(8) \sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{n+2}{2n+1} \right)^n x^n$$

$$a_n = \left(\frac{n+2}{2n+1} \right)^n \text{とおくと、} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{\sqrt[n]{a_n}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2n+1}{n+2} = 2$$

であるから、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径は2となる。

また、 $x = \pm 2$ のとき

$$\sum_{n=1}^{\infty} |a_n x^n| = \sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{2n+4}{2n+1}\right)^n = \sum_{n=1}^{\infty} \left(1 + \frac{3}{2n+1}\right)^n$$

となるので、発散する。したがって、収束域は、 $(-2, 2)$

教科書演習 P.192 問題 6.16

$$(9) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{x^n}{(2n)!}$$

$$a_n = \frac{1}{(2n)!} \text{とおくと、} \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(2n+2)!}{(2n)!} = \lim_{n \rightarrow \infty} (2n+2)(2n+1) = \infty$$

であるから、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径は ∞ となる。したがって、収束域は、 $(-\infty, \infty)$

$$(10) \sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{n}{n+1}\right)^n x^n$$

$$a_n = \left(\frac{n}{n+1}\right)^n \text{とおくと、} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{\sqrt[n]{a_n}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{n}{n+1} = 1$$

であるから、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径は1となる。

また、 $x = +1$ のとき

$$\sum_{n=1}^{\infty} |a_n (1)^n| = \sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{n}{n+1}\right)^n = \sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{1}{1+\frac{1}{n}}\right)^n \rightarrow \frac{1}{e} \quad (n \rightarrow \infty)$$

となるので、発散する。

また、 $x = -1$ のとき $\sum_{n=1}^{\infty} |a_n (-1)^n|$ は発散する。

したがって、収束域は、 $(-1, 1)$

$$(11) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{\log(n+2)} x^n$$

$$a_n = \frac{(-1)^n}{\log(n+2)} \text{とおくと、}$$

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\log(n+3)}{\log(n+2)} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\log n \left(1 + \frac{3}{n}\right)}{\log n \left(1 + \frac{2}{n}\right)} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\log n + \log \left(1 + \frac{3}{n}\right)}{\log n + \log \left(1 + \frac{2}{n}\right)} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1 + \frac{\log \left(1 + \frac{3}{n}\right)}{\log n}}{1 + \frac{\log \left(1 + \frac{2}{n}\right)}{\log n}} = 1 \end{aligned}$$

であるから、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径は1となる。

また、 $x = +1$ のとき $\left\{ \frac{(-1)^n}{\log(n+2)} \right\}$ は単調減少で 0 に収束するから、

$\sum_{n=1}^{\infty} \left\{ \frac{(-1)^n}{\log(n+2)} \right\}$ は収束。

また、 $x = -1$ のとき $\sum_{n=1}^{\infty} \left\{ \frac{1}{\log(n+2)} \right\}$ は発散する。

したがって、収束域は、 $(-1, 1]$

教科書 P.196 演習問題 6-A 3. (レポートに出題)

(12) 整級数 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径を ρ とすると、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{2n}$, $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{2n+1}$ の収束半径は

$\sqrt{\rho}$ であることを示せ。また、 $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{(n!)^2}{(2n)!} x^{2n}$ の収束半径を求めよ。

$\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径は ρ となる。

すなわち $|x| < \rho$ のとき収束し、 $|x| > \rho$ のとき発散するので、

$$\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{2n} = \sum_{n=1}^{\infty} a_n (x^2)^n$$

は、 $|x^2| < \rho$ で収束する。

すなわち $|x| < \sqrt{\rho}$ のとき収束し、 $|x| > \sqrt{\rho}$ のとき発散する。

$$\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{2n+1} = x \sum_{n=1}^{\infty} a_n (x^2)^n$$

も同様に $|x| < \sqrt{\rho}$ のとき収束し、 $|x| > \sqrt{\rho}$ のとき発散する。

$a_n = \frac{(n!)^2}{(2n)!}$ とおくと、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(n!)^2 (2n+2)!}{(2n)! \{(n+1)!\}^2} = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{(2n+2)(2n+1)}{(n+1)^2} \right) = 4$$

であるから、収束半径は $\sqrt{4} = 2$

教科書演習 P.193 例題 6.18

次の整級数の収束半径を求めよ。

(13) $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{2^n(n+1)} x^{2n}$

$a_n = \frac{(-1)^n}{2^n(n+1)}$ とおくと、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2^{n+1}(n+2)}{2^n(n+1)} = \lim_{n \rightarrow \infty} 2 \frac{n+2}{n+1} = 2$$

であるから、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径は2となるので、
(12)より、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{2n}$ の収束半径は $\sqrt{2}$ となる。

教科書演習 P.193 問題 6.17

$$(14) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{2^n}{n^2} x^{2n-1}$$

$$a_n = \frac{2^n}{n^2} \text{とおくと、}$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2^n (n+1)^2}{n^2 2^{n+1}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{2}{n} + \frac{1}{n^2} \right) \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$$

であるから、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径は $\frac{1}{2}$ となるので、

(12)より、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{2n}$ の収束半径は $\frac{1}{\sqrt{2}}$ となる。

$$(15) \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{(2n+1)!} x^{2n}$$

$$a_n = \frac{(-1)^n}{(2n+1)!} \text{とおくと、}$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{a_n}{a_{n+1}} \right| = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(2n+3)!}{(2n+1)!} = \lim_{n \rightarrow \infty} (2n+3)(2n+1) = \infty$$

であるから、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^n$ の収束半径は ∞ となるので、
(12)より、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{2n}$ の収束半径は ∞ となる。

➤ 整級数展開

教科書 P.194 問 11 (演習に出題)

次の整級数展開が成り立つことを示せ。

$$(1) \log(1+x) = x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3} - \cdots + (-1)^{n-1} \frac{x^n}{n} + \cdots \quad (|x| < 1)$$

$|x| < 1$ のとき 2 項展開の式で $\alpha = -1$ とおくと

$$\frac{1}{1+x} = 1 - x + x^2 - \cdots + (-1)^{n-1} x^{n-1} + (-1)^n x^n + \cdots$$

となる。ここで、

$$(\log(1+x))' = \frac{1}{1+x} = 1 - x + x^2 - \dots + (-1)^{n-1}x^{n-1} + \dots$$

であるから、この両辺を積分すると、項別積分の定理より、

$$\log(1+x) = \int_0^x \frac{1}{1+t} dt = x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3} - \dots + (-1)^{n-1} \frac{x^n}{n} + \dots$$

となり、題意を示した。

$$(2) \quad \frac{1}{\sqrt{1+x}} = 1 - \frac{1}{2}x + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4}x^2 - \frac{1 \cdot 3 \cdot 5}{2 \cdot 4 \cdot 6}x^3 - \dots \\ + (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \dots (2n-1)}{2 \cdot 4 \dots (2n)} x^n + \dots \quad (|x| < 1)$$

$|x| < 1$ のとき2項展開の式で $\alpha = -\frac{1}{2}$ とおくと

$$(1+x)^{-\frac{1}{2}} = \binom{-\frac{1}{2}}{0} + \binom{-\frac{1}{2}}{1}x + \binom{-\frac{1}{2}}{2}x^2 + \dots + \binom{-\frac{1}{2}}{n}x^n + \dots \quad (|x| < 1)$$

ここで、 $n=1$ のとき

$$\binom{-\frac{1}{2}}{1} = 1$$

また、 $n \geq 1$ のとき、

$$\begin{aligned} \binom{-\frac{1}{2}}{n} &= \frac{-\frac{1}{2}(-\frac{1}{2}-1)\dots(-\frac{1}{2}-n+1)}{n!} \\ &= \frac{-\frac{1}{2}(-\frac{3}{2})\dots(-\frac{(2n-1)}{2})}{n!} = \frac{1 \cdot 3 \dots (2n-1)}{2^n \{1 \cdot 2 \dots (n)\}} \\ &= (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \dots (2n-1)}{2 \cdot 4 \dots (2n)} \end{aligned}$$

したがって、

$$\frac{1}{\sqrt{1+x}} = 1 - \frac{1}{2}x + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4}x^2 - \frac{1 \cdot 3 \cdot 5}{2 \cdot 4 \cdot 6}x^3 + \dots + (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \dots (2n-1)}{2 \cdot 4 \dots (2n)} x^n + \dots$$

となる。

$$(3) \quad \sin^{-1} x = x + \frac{1}{2} \frac{x^3}{3} + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4} \frac{x^5}{5} + \dots + \frac{1 \cdot 3 \dots (2n-1)}{2 \cdot 4 \dots (2n)} \frac{x^{2n+1}}{2n+1} + \dots \quad (|x| < 1)$$

$|x| < 1$ のとき2項展開の式で $\alpha = -\frac{1}{2}$ とおくと前問より

$$\frac{1}{\sqrt{1+x}} = 1 - \frac{1}{2}x + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4}x^2 - \dots + (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \dots (2n-1)}{2 \cdot 4 \dots (2n)}x^n + \dots$$

となる。さらに $x \rightarrow x^2$ とすれば

$$\frac{1}{\sqrt{1+x^2}} = 1 - \frac{1}{2}x^2 + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4}x^4 - \dots + (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \dots (2n-1)}{2 \cdot 4 \dots (2n)}x^{2n} + \dots$$

となる。よって、

$$\begin{aligned} (\sin^{-1} x)' &= \frac{1}{\sqrt{1+x^2}} \\ &= 1 - \frac{1}{2}x^2 + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4}x^4 - \dots + (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \dots (2n-1)}{2 \cdot 4 \dots (2n)}x^{2n} + \dots \end{aligned}$$

この両辺を積分すると、項別積分の定理より、

$$\sin^{-1} x = \int_0^x \frac{1}{\sqrt{1+t^2}} dt = x - \frac{1}{2} \frac{x^3}{3} + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4} \frac{x^5}{5} - \dots + (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \dots (2n-1)}{2 \cdot 4 \dots (2n)} \frac{x^{2n+1}}{2n+1} + \dots$$

となり、題意を示した。

教科書 P.196 演習問題 6-A 4. (レポートに出題)

$$(4) \sinh x = x + \frac{x^3}{3!} + \frac{x^5}{5!} + \dots + \frac{x^{2n-1}}{(2n-1)!} + \dots \quad (-\infty < x < \infty)$$

$\sinh x = \frac{1}{2}(e^x - e^{-x})$ である。 $-\infty < x < \infty$ にたいして、

$$e^x = 1 + \frac{x}{1!} + \frac{x^2}{2!} + \frac{x^3}{3!} + \frac{x^4}{4!} + \frac{x^5}{5!} + \dots + \frac{x^n}{n!} + \dots$$

$$e^{-x} = 1 - \frac{x}{1!} + \frac{x^2}{2!} - \frac{x^3}{3!} + \frac{x^4}{4!} - \frac{x^5}{5!} - \dots + (-1)^n \frac{x^n}{n!} + \dots$$

両辺を差し引きして 2 で割ると、

$$\frac{1}{2}(e^x - e^{-x}) = \frac{x}{1!} + \frac{x^3}{3!} + \frac{x^5}{5!} + \dots + \frac{x^{2n-1}}{(2n-1)!} + \dots \quad (-\infty < x < \infty)$$

となる。

教科書演習 P.197 例題 6.23

$$(5) \sqrt{1+x} = 1 + \frac{1}{2}x - \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4}x^2 + \dots + (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \dots (2n-3)}{2 \cdot 4 \dots (2n-2)} \frac{x^n}{2n} + \dots \quad (|x| < 1)$$

$|x| < 1$ のとき 2 項展開の式で $\alpha = \frac{1}{2}$ とおくと

$$(1+x)^{-\frac{1}{2}} = \binom{\frac{1}{2}}{0} + \binom{\frac{1}{2}}{1}x^1 + \binom{\frac{1}{2}}{2}x^2 + \cdots + \binom{\frac{1}{2}}{n}x^n + \cdots \quad (|x| < 1)$$

ここで、 $n = 1$ のとき

$$\binom{\frac{1}{2}}{1} = 1$$

また、 $n \geq 1$ のとき、

$$\begin{aligned} \binom{\frac{1}{2}}{n} &= \frac{\frac{1}{2}(\frac{1}{2}-1)\cdots(\frac{1}{2}-n+1)}{n!} \\ &= \frac{\frac{1}{2}(-\frac{1}{2})\cdots(-\frac{(2n-3)}{2})}{n!} = (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{2^n \{1 \cdot 2 \cdots (n)\}} \\ &= (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{2 \cdot 4 \cdots (2n-2)} \frac{1}{2n} \end{aligned}$$

したがって、

$$\sqrt{1+x} = 1 + \frac{1}{2}x - \frac{1}{2} \frac{x^2}{4} - \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4} \frac{x^3}{6} - \cdots + (-1)^n \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{2 \cdot 4 \cdots (2n-2)} \frac{x^n}{2n} + \cdots$$

となる。

教科書演習 P.197 問題 6.22

$$(6) \sqrt{1-x^2} = 1 - \frac{1}{2}x^2 - \frac{1}{2} \frac{x^4}{4} + \cdots - \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{2 \cdot 4 \cdots (2n-2)} \frac{x^{2n}}{2n} + \cdots \quad (|x| < 1)$$

(5)において x を $-x^2$ に置き換えると

$$\sqrt{1-x^2} = 1 - \frac{1}{2}x^2 - \frac{1}{2} \frac{x^4}{4} - \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4} \frac{x^6}{6} - \cdots + \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{2 \cdot 4 \cdots (2n-2)} \frac{x^{2n}}{2n} + \cdots$$

$$(7) \frac{1}{\sqrt{1-x^2}} = 1 + \frac{1}{2}x^2 + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4}x^4 + \cdots + \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-1)}{2 \cdot 4 \cdots (2n)}x^{2n} + \cdots \quad (|x| < 1)$$

(2)において x を $-x^2$ に置き換えると

$$\frac{1}{\sqrt{1-x^2}} = 1 + \frac{1}{2}x^2 + \frac{1 \cdot 3}{2 \cdot 4}x^4 - \frac{1 \cdot 3 \cdot 5}{2 \cdot 4 \cdot 6}x^6 + \cdots + \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-1)}{2 \cdot 4 \cdots (2n)}x^{2n} + \cdots$$